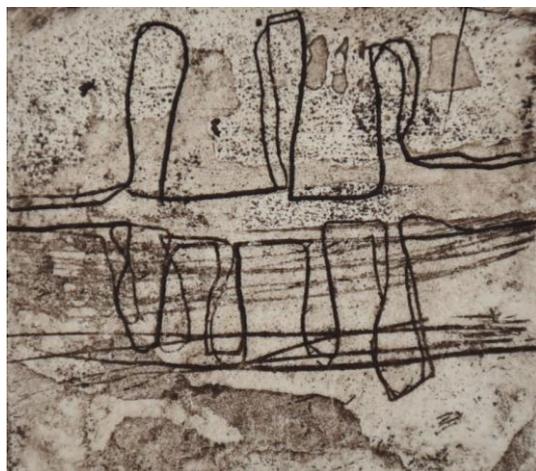


非正規滞在者の蝕まれる健康と深刻なる医療

—移住者と連帯する全国フォーラム2025in北関東—



AMIGOS

NPO法人北関東医療相談会

2025年6月22日（日）

1

健康は「生き抜く力」

健康は、「生き抜く力」と言われています。

この誰でも子供の時から持っている健康、明日を「生き抜く力」を見つめなおすと、外国人とりわけ仮放免者は、在留資格によって健康を左右されているのではないかと考えました。

在留資格が無いことは自動的に「健康に暮らせない」こととなり、日本人であれば生活保護の対象となるのです。外国人は、在留資格が無いと公的には電気・水道・ガスの支給はなく、家も借りることが出来ずに暗闇で底辺に生きることになるのです。

つまり“在留資格の無い外国人”は、入管の「健康に暮らせない」ことが常態化され、「基本的人権」が取りあげられ「人間の尊厳」をないがしろにされて、非人道的政策の施行の餌食となっていると思われます。

このような施策では、およそ医療の必要性を理由に在留特別許可を申請しても、許可されるケースはまれで、許可される場合でも、ほとんどが亡くなる直前であるのでは、と思われます。

「健康格差社会」近藤克則著

2

在留資格の無い外国人の排斥

結果として

在留資格の無い外国人

健康な生活は出来ない

日本から出国

住民票が無い
働くことができない

健康保険を所持できない

家の契約に
つながらない

電気・水道・ガス
停止

「基本的人権」を取りあげ
「人間の尊厳」を奪う

3

	在留資格	国籍	年月日	地域	症例	経緯	結果	在留特別許可等の申請	健康保険
1	仮放免者	バングラデッシュ	2013年	伊勢崎市	閉塞	就寝中にガスが口から出て喉に詰まらせる	死亡	無し	無し
2	仮放免者	パキスタン	2013年	太田市	肝臓がん	2013年健康診断太田会場でC型肝炎⇒肝がん	死亡	無し	無し
3	仮放免者	ベトナム	2014年	太田市	ヘロイン中毒	ヘロイン中毒の解毒	死亡	無し	無し
4	非正規滞在者	ブラジル	2017年	太田市	肝臓の免疫不全	国立高崎に行くが診療拒否	死亡	無し	無し
5	非正規滞在者	フィリピン	2017年	澁川市	同上	すでに入院していた	死亡	無し	無し
6	仮放免者	ベトナム	2017年	太田市	肝臓がん	B型・C型肝炎から肝がん	手術して生き残る	あり	協会健保
7	仮放免者	中国人	2017年	東京都	角膜潰瘍	角膜手術	手術しない	あり	協会健保
8	仮放免者	カメルーン	2017年	栃木県	妊娠	産前産後	生存	無し	無し
9	仮放免者	フィリピン	2017年	鴻巣市	黄斑浮腫	手術して快復	手術	あり	協会健保
10	仮放免者	バングラデッシュ	2018年	東京都	卵巣がん	卵巣がん支援	手術し生き残る	あり	あり
11	仮放免者	フィリピン	2018年	三郷市	肺癌	末期の肺癌	死亡	あり	あり
12	仮放免者	ペルー	2020年	大泉町	大腸がん	宇都宮の病院にて大腸がん手術	手術して生き残る	あり	あり
13	仮放免者	パキスタン	2020年	埼玉県	潰瘍性大腸炎	難民として逃げていた。	難病として一度は特定活動	監視処置	健康保険
14	仮放免者	カメルーン	2021年	神奈川県	乳がん	乳がん手術	死亡	在留特別許可	健康保険
15	仮放免者	イラン人	2023年	東京都	頻発性不整脈	心臓カテーテルアブレーション	手術	特定滞在	健康保険
16	仮放免者	カメルーン	2023年	埼玉県	帝王切開 難病	難民として逃げていた。	母子生存	特定滞在	健康保険
17	仮放免者	カメルーン	2023年	千葉県	腎臓病透析	難民として逃げていた。	生存	申請のみ	無し
18	仮放免者	ナイジェリア	2023年	神奈川県	S字結腸癌	2010年4月から仮放免生活	死亡	申請のみ	
19	非正規滞在者	フィリピン	2025年	茨城県	乳がん	偽造パスポート、オーバースティ	生存	特定滞在	健康保険
20	非正規滞在者	ブラジル	2025年	群馬県	肺炎	年齢により働けない	生存	無し	無し

医療相談会が関わった中で死亡した人



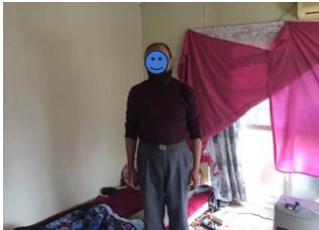
1 バングラデッシュ人 Hさん

仮放免者

腸閉塞と窒息（2013年9月死亡）

2013年3月高崎医療相談会から受診、すでに15年を超える滞在者、もともと喘息持ちであった。

8月初旬に太田駅頭で倒れ、救急搬送される。安中市の無料定額診療の病院にて治療し1ヶ月後、退院し数日のうちに腸閉塞により睡眠中に口からガス突沸となり汚物が喉に詰まり**死亡**。



2 (パキスタン人)

群馬県太田市 肝癌

仮放免 無保険 分割対応

初期相談 平成25年太田会場にて健康診断を受け以降、C型肝炎と診断された。済生会前橋病院にて検査確認し、肝機能を強化する治療を太田協立診療所に依頼して経過観察したが平成26年12月、肝癌に移行した。

県内では肝癌の手術は困難であったが県立がんセンターに当会ボランティア医師を仲介依頼し検査開始、平成27年3月30日肝癌と診断される。

その後、費用を生活に見合った分割支払いを条件に手術を計画したが肝癌の進行が速く手術は不可能となり平成27年5月1日に**帰国、7月に亡くなった**。

医療相談会が関わった中で死亡した人



⑥ [redacted] (ベトナム人)

埼玉県川口市

仮放免者 無保険 無料低額診療にて対応

初期相談 平成26年6月 第29回医療相談会（太田会場）にてヘロイン中毒による弊害の訴え以降済生会鴻巣病院にて検査、ヘロインを使用、平成27年3月27日本人が再度やめたいとの訴えにて再度、済生会鴻巣病院にて30日の解毒入院治療を実施した。2016年5月電車自殺



4 (2017年11月末~12月23日) 高崎中央病院

2017年12月、群馬県太田市、ブラジル人 肝臓の免疫不全により肝不全となって死亡。日系ブラジル人と結婚、来日、以降離婚して日系人の夫は先にブラジルに帰国、本人はブラジルには父親が入院、母親は既に他界し身寄りがなく、父親の入院費を稼ぐために非正規滞在者となり働き続ける。2017年9月頃から肝臓を病んでいたが保険がなく放置され、当会がアパートに訪ねたときは褥瘡（じょくそう）、羸瘦（るいそう）も進み虫の息で、当時の国立高崎病院に連携するも受け入れ拒否となった。「病院はホテルではない」と追い返される。高崎中央病院が受け入れその後**死亡**。**葬式は当会で出し、入院費は群馬県と高崎市で賄った。**

医療相談会が関わった中で死亡した人



5 フィリピン人非正規滞在者

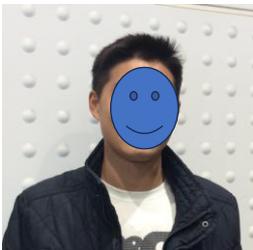
2017年12月、群馬県渋川市、フィリピン人肝臓の免疫不全により死亡。入院先の病院から相談ということで個別に対応した。入院時には既に処置のしようのない状態であった。後で調べると入国時に偽ビザで来ていたので親族もわからない状況であった。葬儀は当会とカトリック渋川教会でおこなった。葬儀の時点で、亡くなる前の家族が現れた。その家族は亡くなった病院から数百mのところに住んでいた。夫、子供2人がいた。親族も埼玉県内から駆け付けた。最終的にはフィリピン領事館と連動したことで親族が判明した。**費用は、病院と新しい夫にて対応。**



6 I市市民病院

2017年9月群馬県I市在住、ベトナム人定住難民から仮放免者、病名肝がん B型とC型の肝炎を持ちすでに発症して手術寸前であった。元妻から「仮放免者なので保険がなくどうかしてほしい」と訴えてきた。当会で調査し、離婚しているが離婚後も同じ家に住み続けている事実婚と思われるので社会保険に確認し、在留特別許可と並行し、難民の保有個人情報開示請求、婚姻していない旨の理由書、診断書を持って申請書を作成し約1ヶ月半後に社会保険を取得、治療をした。当会から診察費用(6万円)及び移動経(2万円)を支援した。**社会保険が発行されたのは手術日の前日であった。**

協会健保が出た人



7 豊島区在住中国人の角膜潰瘍の治療相談と対応

・都内総合病院にて見立てをした。角膜潰瘍とのことで至急の手術の必要があるとのこと両親も中国からの出稼ぎ労働者、母親にすぐに社会保険に切り替えるように伝えてもらう。

母親が社会保険の手続きを終了とのこと本人の手続きに入りました。確認後角膜手術のための病院探しに切り替えます。10月に入り、事態が急変、**社会保険**が降りたとのこと、病院へ報告と大学病院へ行き、今後の治療の確認をおこない11月に結局角膜はこれ以上治すことができないとのことであった。

社会保険があって支払いも数千円程度となって安心しています。

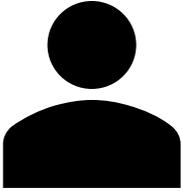
8 カメルーン人 仮放免者(2017年3月~7月)

宇都宮済生会病院 小山市市民病院

栃木県小山市 カメルーン難民申請者から仮放免者

本人から、腹痛をきっかけに訴えがあり妊娠と判明、その後栃木県小山市役所から支援要請があった。理由は、仮滞在から**仮放免**に資格が移行後に売春を行い、およそ300人と関係し、妊娠した。当初、日本で出産を希望するも、国内の制度では売春による妊娠および出産は対応できないとの結論であった。自国へ戻ることが一番の支援となり、その間の妊婦と胎児の健康維持の支援、帰国までの日本国内の生活支援、日本国内移動経費、帰国後の親元までの交通費支援、出産費用支援(8万円)、通訳者の経費及び食糧を当会が支援した。帰国における飛行機代金は当会のアドバイスで市役所から入国管理局に連絡しチケットを購入した。本来であれば国や行政が持つことになってもおかしくないが、国も行政も予算化していないこと、非正規滞在を盾に支援しなかった。





9 Mさん（フィリピン人）

在留資格なし、仮放免中
埼玉県鴻巣市在住
2017年7月フィリピングループを通じて当会に相談あり「左網膜中心静脈閉塞症による黄斑浮腫」治療費が自費150万円ということで相談に来る。**社会保険取得**と当会からの支援で第1回の治療費用が掛らずに終了。



10 FYさん

出身国：バングラデッシュ
身分：仮放免者女性。
卵巣癌であることがわかり、在特申請。申請時に寄付金を募り手術を実施150万円を支払い、手術後に**在留特別許可認められ、健康保険を取得**する。その後、抗がん剤治療全6回を健康保険で治療生還できた。

医療相談会が関わった人で健康保険が出た人



11 国籍：フィリピン

症状：肺癌

2020年6月2日、長崎県大村収容所から収容をとかれ埼玉県吉川市の自宅に帰宅した。自宅に戻った時には肺癌を患っていたと思われていたが決定的な確定診断が出来ずにいた。よって東埼玉病院にて肺癌の確定診断を依頼して在留特別許可を申請した。

ほどなく審査結果として**健康保険を取得**したが、2021年に肺癌のために亡くなった。



12 事例2 2020年 仮放免者

群馬県〇町

栃国籍ペルー人、

平成6年10月来日、群馬県大泉町にて就労、平成23年6月に収容、平成25年仮放免、平成29年前立腺肥大等で相談開始木県のクリニックに通院していた仮放免者、大腸がんが発見されて群馬県内の無料低額診療の病院に依頼したが断られた。近くの〇市の病院に救急車で運ばれたが仮放免者ということ働けないということで断られた。よってクリニックで1ヶ月ほど輸血をしていたと聞き、栃木県内の無料低額診療の病院に依頼手術を受けると同時に在留特別許可申請を行い受理され**健康保険が取得**された。



13 瘍性大腸炎

性別：男性 パキスタン出身
家族：6人 病名：潰瘍性大腸炎（指定難病）
病院：独立行政法人 国立病院機構 東埼玉病院

初来日は2000年、2019年自国の政党間抗争で実弟が殺害され、家族にも脅迫が及び親日的感情を持っていた日本に、再度難民として入国した。来日後の厳しい難民生活のためにストレスを被り、潰瘍性大腸炎を患った。2020年3月28日から江戸川病院に通院、近くの国立病院機構東埼玉病院に通院、**在留資格と難病認定を申請し認められた**。2023年5月に**難病が治ったとして治療を止めた**。翌年2024年2月に**在留資格を突然喪失**してしまった。直後に潰瘍性大腸炎が再発し、東埼玉病院で治療したが、治療費は300万円の借金となった。一部は難民事業本部が支払ったものの、現在も36万円の借金が残っている。



14 乳がん

国籍：カメルーン

症状：子宮筋腫や卵管内膜症と診断され、乳癌が発覚した。
神奈川県に在住のカメルーン人女性リリンデス・マイさんは仮放免者でした。2018年に乳癌と診断され、2020年10月末期の乳がん患者となりました。家賃が払えずホームレスとなり、当会に支援要請され11月礼拝会の施設で収容されました。その後聖ヨゼフ会桜町病院で末期を迎えます。2020年11月末に在特を申請し数度交渉し、21年1月7日ようやく出すという連絡があり1月21日弁護士に在特がおりた連絡がありました。しかし本人に**在留カードが届いたのは2021年1月23日午前10時**。亡くなったのは**午前6時25分**、**死亡後3時間経過**でした。



② 帝王切開と子の難病支援に特定滞在6ヶ月取得

国籍 カメルーン 女 30代(埼玉県)
疾病名 子：左心低形成症候群(僧帽弁閉鎖・三尖弁閉鎖)
出産支援：帝王切開の入院助産の申請

2019年3月9日来日、母国で難民として逃げているときに父・母・妹・弟皆殺され、本人は妊娠(9か月)お腹を刺され子供は死亡しました。②その後来日、イラン人男性との子供妊娠、仮放免のため入院助産制度を利用して出産を準備し、アジア教育財団(RHQ)に申請し認可されています。課題は在留資格を取得、難民申請と同時に在留特別許可の申請を行いました。並行して、国会議員に要請した結果、**特定滞在6ヶ月母子同時に取得**しました。 **当会支援：17万4,900円**

16 2023年3月

東京都Aさん

出身国：イラン

症状：「頻発性不整脈(アブレーション)」

治療方法：心臓カテーテルアブレーション

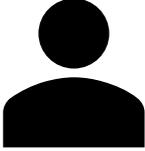
取得ビザ：PTSDおよび心房細動・慢性心不全。循環器内科の専門病院で10年以上通院加療をしているが、健康保険がないため、根治療法であるカテーテルアブレーションの手術を受けられないままです。

特定活動1年の在留資格を取得し**健康保険に加入**

費用：169万円(寄付金で賄う)



イラン難民アフシンさんの緊急手術支援(寄付金)のお願い
「アフシンさんのハートを変える会」

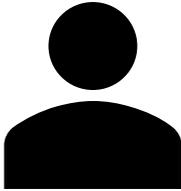


17 氏名： ██████████

国籍：ナイジェリア

症状：S字結腸癌 多発肺転移 2型糖尿病
高血圧 白内障 視力低下

経緯：来日2010年4月1日 ナイジェリアの一農村の副首長、石油開発利権から長男が殺され、家族も別れて本人は日本に逃げて来た。難民申請するが認めらずに2014年7月8日に神奈川県海老名市で末日聖徒キリスト教会の支援を受けていたが生活困窮であった。2023年5月11日腹痛から大和市立病院にて受診、糖尿病の経過観察を経て5月23日に再度腹痛のため受診「S字結腸癌穿孔、肺転移、ステージ4」と診断された。無料定額診療の病院に移転を試みるも断られ2023年8月迄入院させ横行結腸人工肛門の造設等を行った。余後は1年。2023年12月亡くなった。



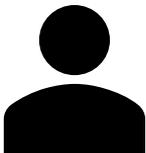
18 埼玉県Jさんの件

出身国 カメルーン

症状；末期腎不全、悪性高血圧症、尿毒症
費用：毎月30万円の透析

在留特別許可申請におけるガイドライン（平成21年7月改定）の当該外国人が、難病等により本邦での治療を必要としていること、特別な事情としてカメルーンの医療事情が劣悪であることを考慮して、人道的配慮による**在留特別許可を申請現在無し。**

健康保険への加入例



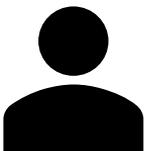
19 茨城県Kさん

出身国 フィリピン

症状：乳がん ステージIV 骨転移

費用：毎月山芋治療の湿布代金

当事者は、フィリピンから偽造パスポートにより不法入国、不法滞在30年入管出頭は2024年12月におこないました。同時に弁護士と長澤の意見書を提出、その後2025年1月に**特定活動を取得し健康保険**を得ることができました。



20 群馬県伊勢崎市Tさんの件

出身国 ブラジル 日系ブラジル人

在留資格なし 症状：肺炎、処置：2023年前橋日赤病院から肺炎で入院処置、退院後の生活支援を依頼されたので食糧支援をおこなった。2025年5月に電気が止まっていることがわかり調査したところ電気、水道、ガス供給が無くなっていた。直後に当会の健康診断会で検査し、前橋協同病院に入院。島根県にいる姪と連絡が出来るようになり、帰国を前提に対応している。

在留資格の無い外国人は、健康保険がなく高額な医療費が直接かかる、生命に危険がある状態と診断されながら医療機関での受け入れを断られる、わが国には、このような悲惨な状況に置かれている移民・難民(外国人)がたくさん存在するのです。

- ① 医療を必要とする被仮放免者が、仮放免期間中に医療が受けられるよう、健康保険に加入できる在留資格を出してください。
- ② 働く妻がいる仮放免者の家族にとって、協会健保は重要な保険です。健康保険が取れなければ協会健保を取得しやすくする。
- ③ 未払補填事業の整備拡充を図ってください。
- ④ 医療機関が、健康保険のない移民・難民の医療費を高額に設定することをやめさせてください。無保険であっても生活困窮者であれば、一点10円で計算された医療費で治療を受けられるようにしてください。
- ⑤ 人が見合った世話(ケア)ができること、見捨てられることなく、慈しみに見守られること、尊厳はいのちの尊さ。

多文化共生→共感共苦

* 表紙の画はカビの胞子のエッチング版画です。